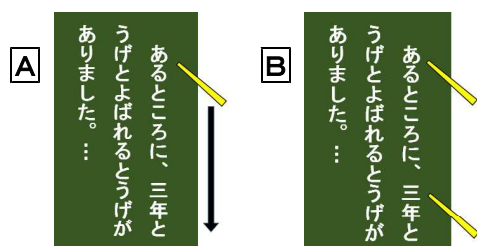




指示棒をどう動かすか

新潟市立総合教育センター 所長 小林 圭一

指示棒で示しながら、子どもたちに板書を読ませる場面。指示棒をどう動かすのがよいか。



Aは、語に沿い、指示棒をスーッと滑らすように動かす。Bは、指示棒を滑らさず、各語を一点ずつ、ポン、ポンと押さえながら動かす。

声がそろい、声量が上がるのは、Bだ。

TV番組を見ると、NHKのアナウンサーの多くも、Bのように指示棒を動かす。

Bが機能するからくりは、人が声に出して読むときの「口と目のズレ」にあるという。

先の板書で、行末の「と」と行頭の「うげ」を分けて読む者はない。誰もが無意識に「とうげ」と読む。こう読めるのは、口が「と」と発しているとき、目はすでに次行の「うげ」を見ているからだ。つまり、人が文章を声にして読むとき、口と目はズレている。

ところが、Aの場合は示された箇所を声にすることになり、口と目がそろってしまう。結果、ズレは生まれず、読みにくくなるというのだ。

この技、私は新採用のときに先輩から教えてもらった。以来、からくりなど知らぬまま使ってきたが、きちんと効果を上げていた。

こうした技は数多くある。例えば、次がそうだ。

- ・チョークは、寿司を握るように持つ。
- ・一斉音読を始める掛け声は、「せえのオ」ではなく、「三、ハイ」とする。
- ・手に持った資料を教室全体に見せるとき、左右に流して提示するのではなく、「中央

→左→右」の順に3回止めて提示する。

いずれも初任校で教わり、使い続けた技だ。

授業の技を巡る異論を耳にすることもある。

例えば、「授業の技云々でなく、指導構想や授業づくりについてこそ語るべきだ」という論だ。

これはそもそも、技と授業づくりに優劣をつけることに意味がない。どちらも大切なのだ。料理に置き換えると分かりやすい。どれだけ立派なレシピがあっても、調理が下手ならば美味しい料理は完成しない。逆もまた然り。ということ。

「技一つ取り入れてみたって、授業が激変するほどの効果はない」という論もある。

その通りだ。しかし、一つの技の効果はわずかでも、一時間にいくつもの技を使うとなれば、そして、授業は年間1000時間に及ぶと考えれば、効果はむしろ相当に大きいと言えるだろう。

「技は人に教えてもらうものでなく、経験を重ねる中で自ら獲得すべきもの」という論もある。

確かに、ずっと教壇に立ち続けていれば、いつしか自然と技が身に付くのもかもしれない。だが、それまでの間、技を持たない教師の授業を受ける子どもはどうなのだ。いち早く身に付けることが、子どもを大切にすることなのではないか。

教育界の先達はこれらのことを知っていた。だから、受け継いだ技を日々活用し磨きをかけ、時には新たな技を開発しながら、後輩に伝えた。

昨今の学校を巡る状況においては、かつて日常的に行われていた技の伝承が、そう簡単なことではなくなったように見える。

しかし、継承されない技はそこで途絶える。

大量退職が続く今、多彩な先達が在職のうちに、授業の技について教え教えられる機会が市内のあちこちに生じたら、と思う。

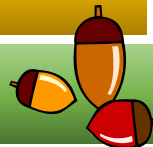


ちょっと寄っていきませんか？

情報ガチャ!



【話題】個性豊かな「ドングリ」たち ～小学校 生活科～



小学校の生活科「たのしい あき いっぱい」などの単元でおなじみの「ドングリ」。

手にした子どもたちに秋を感じさせることができ、おもちゃづくり（「やじろべえ」「こま」「マラカス」）にも利用できる可愛らしい木の実です。

また、映画「となりのトトロ」【1988年4月公開／原作・脚本・監督 宮崎駿】に登場し、トトロの愛らしさを引き立たせた木の実としても有名です。

そもそも「ドングリ」という言葉は、習慣的な呼び名で、きちんと「何がドングリか」定義されているわけではありません。ですから、厳密には「ドングリの木」というものはないわけです。

しいていえば、「ドングリ」＝「ブナ科の樹木の丸い木の実の総称」という区分の仕方が、限りなく定義に近いといえます。



シラカシ



スダジイ

さて、成熟した「ドングリ」が木から落ち始めるのは9月末頃。

10月初旬～中旬頃まで地面に落ち続けます。拾ってみると、細長かったり、とても小さかったり、種類が同じ「ドングリ」でも母親の樹（母樹）によって形や大きさにずいぶん違いがあることに驚かされます。

もちろん、種類が違えば形や大きさは異なります。

現在日本で確認されている「ドングリ」は全部で□種類。

その内、鳥屋野潟公園では「シラカシ」「スダジイ」「コナラ」など、10種類程度見られるそうです。

ちなみに、日本最大の「ドングリ」は、「オキナワウラジロガシ」（沖縄裏白樫）という種類で、幅2～3cm・長さ3～4cm程あります。

大きいですね…ほぼ栗。



オキナワウラジロガシ



★現在日本で確認されているドングリは□種類。

答えはこちらの二次元コードから →



「ドングリの背比べ」とは「どれも平凡で抜きん出たものがない」という例えですが、実物は意外と差があるもの。秋晴れの気持ちのよい日には、子どもたちと一緒に外へ出て、個性豊かな「ドングリ」たちに会いにいってみるのも楽しいと思います。

総合教育センターの執務室（2F）に、「どんぐりの仲間（16／22種）」が展示してあります。

研修でご来所の折、お気軽にお立ち寄りください！

（右写真○の位置）

